

## まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：生活環境分科会（第3回）

開催日時：平成21年9月24日（木）15時～18時

開催場所：別館地下1階研修室

出席委員：草皆はつ代、郡司吉松、坂本学（分科会副会長）、高村裕、土田茂通、  
中川文子、平賀義男（分科会長）、三嶋秀恒、渡邊滋子、戸張武彦、  
布施優、遠藤高幸（敬称略、順不同）

欠席委員：橋本たき（敬称略）

事務局：木内博和、錦戸茂尚（政策調整課）

### 【会議内容】

#### ■分科会長挨拶

- ・ あっという間に9月になってしまいました。この未来づくり会議もいよいよ宣言文をまとめる段階に来ました。今までランダムに色々な意見を出しましたが、何らかの形になっていくのかなと思います。世の中変わりました。鳩山さんのCO<sub>2</sub>の25%削減とか。私たちはCO<sub>2</sub>のことについてよくわからない。私たちが何をしていくのかとなると、10年後までに影響しますから、そんなことも含めて、また議論していこうと思います。

#### ■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

- ・ 話し合いのルールの再確認
  - ⇒全ての意見に価値を置く
  - ⇒人の話をよく聴く
  - ⇒想いや考えは全体で共有する
  - ⇒時間厳守
  - ⇒未来に焦点をあてる

#### ■「目指したい姿の宣言文」素材検討

- ・ 各政策について、自分たちが何を実現したいのかを念頭に置きながら、「目指したい姿の宣言文」を構成する言葉の素材を考える。
- ・ 具体的には、目的（「…に向けて」「…のために」）、手段（「…を通して」「…することで」）、成果（「…を実現する」「…を生み出す」）の観点で自由にキーワードを書く。
- ・ 個人で作成した素材を模造紙に貼り出し、全員で共有する。

## ■ 検討する政策の選定・順序の確認

- 政策10と11は一緒に良いのではないか。
- 人間が努力したらできることと、努力してもどうにもならないことを分けた方が良いのではないか。
- 自然環境と安全・安心で分けたらどうか。つまり、政策13、15を自然環境としてまとめて、政策10、11、12、14を安全・安心としてまとめたらどうか。
- 政策ごとに括って、全部に共通する目的を考えるのは大変。このカテゴリの中から1つ選んだ方が良い。
- 環境として考えるなら、政策13と15は切り離せない。
- 安全・安心（政策10、11、12、14）については、今、提唱されている部分もある。この10年で実行できなかったことを、これから先の10年で考える必要がある。しかし、4つの政策の中でも幅がある。
- 10年前に作った計画では、政策13に関する部分は、「地球温暖化を視野に入れ」とこの程度である。当時は、ゴミ問題が議論になっていて、地球温暖化は疑わしい程度であり、問題として認識されていなかった。他の政策は、過去からの問題の延長線上にあるが、政策13だけは特殊である。政策13だけは、他とは質が違うので外せない。
- まず、政策13からやりますか。
- 次に、関連の深い政策15をやりますか。
- 環境も大事だが、昨日も大きな事件、強盗事件があった。犯罪や救急についても議論する必要があると思う。特に、救急については松戸市はこれから課題になってくると思う。犯罪についても、地域の防犯の関係を話し合ったが良いと思う。
- 最低でも、3つの政策は話し合います。
- 政策13については、話し合おうということで、皆さんの意見が一致しています。
- とりあえず政策13をやりましょう。終わってから、次に話し合う政策を決めましょう。
- その考え方で良いと思うが、政策13は地球温暖化の問題、政策15は緑の住環境ということで、CO2の問題と括れるものではないという認識はしておいてもらいたい。

## ■「目指したい姿の宣言文」の作成

### <政策13の「目的」の検討>

- ・ 低炭素社会は、政府が提唱している言葉。50年後、低炭素社会を目指そうといっている。それは、地球温暖化が進んでいるから。目的は、地球温暖化防止である。
- ・ 理論は題材として出ている。では、実現するためにはどうしたら良いのか。どういう法律が必要なのかが一番大切。目的は出たけど、10年後変わっていないのでは意味がない。なぜ、変わっていないかというモラルに頼っているからである。現実には、松戸市だけでできるのか。松戸市が主導して、世界の松戸になっていくのか。そちらを今後考えていく必要がある。10年後、やったけど変わらないでは意味がない。松戸市として何を発信するか、明確にしないとイケない。地球温暖化は、どこの市でも問題である。実現するために、松戸市としてどうするかが一番大事。
- ・ 低炭素社会は、日頃、我々が使っている照明やクーラーでの取り組みが、積みも積もって実現できる。日常生活の中で、我々が即やらなければならないことがたくさんある。行政はわかりやすくPRするのが仕事。
- ・ 減CO2大作戦の目標は、20年先のCO2を25%削減すること。鳩山さんの言っていることと合致している。
- ・ 情報共有のため、蛍光灯を換えるとCO2が減るなど、広報で知らせることが必要。お金がかかることであり、財政の問題が出てくるので、必ずしも普及するわけではない。水5リットル使うところを4リットルにするなどの方法もある。できるところから提案して、広報するしかない。まず、役所が率先して蛍光灯を換えるなどしないとイケない。市民一人ひとりに換えさせるには、莫大な費用がかかる。松戸市として何ができるか話し合うべき。
- ・ この議論は宣言文を作ること。方向性を決めることである。
- ・ 宣言文作成のポイントのところに、わくわくするなどの条件がついている。
- ・ 減CO2大作戦は、かなり無理した数字である。
- ・ 学校では子どもたちにごみの8分別をやらせている。
- ・ 子どもの頃、地球温暖化の話は聞かなかった。クーラーもなかった。冷蔵庫も小さかったし、照明も小さかった。夜になると早く寝なさいと言われた。今よりも、エネルギーを使わない生活だった。今の生活は、24時間灯りがついていたり、車は1人1台持っていたり、生活のクオリティは上がっている。これから将来、子どもたちの世代はどうしようか考えたときに、今の生活を維持しながら、今の環境を引き継いでいければ理想的かなと思う。松戸という視点で考えたとき、松戸がどういうまちになれば良いかといえば、「地球にやさしい人が住むまちまつど」になれば良いと思う。今と昔で違うのは、

今はエネルギーの消費量が莫大に増えている点である。エネルギーの消費量を抑えながら、今の生活を維持しようという努力をみんなですていく必要がある。

- ・ 減CO<sub>2</sub>は、目的にも手段にも成果にもなる。地球温暖化の防止のためには、減CO<sub>2</sub>というのは、世界中のみんなが言っていることである。あえて、それよりもインパクトの強いものに、もっと絞った方が良くないかと思う。
- ・ 減CO<sub>2</sub>大作戦の中で、7月7日を減CO<sub>2</sub>の日をしている。広報で一面に減CO<sub>2</sub>について載ったことがある。だが、みんな知らない。興味がなかったからだろう。これから、みんなを巻き込む必要がある。結論を言うわけではないが、目的としては、「地球温暖化防止のために」という言葉がキーワードになると思う。成果としては、「低炭素のまちづくり」、手段については、「市もかんばる。身近な自分たちができることは、それぞれが、省エネに取り組む」ということではないかと思う。
- ・ コンパクトシティについて、説明しても良いですか。まず、高層住宅に人を集めます。集合住宅の方がエネルギーロスが少ない。一戸建てが一番ロスが大きい。集めてきたところに、自動車を入れさせないようにし、高層者の設備を整えるとか全部集合させる。すると空間があく。あいた土地に、緑を持ってきたりする。これは、農業、省エネ、高齢化の問題を一挙に解決する発想法である。これができたところはどこにもない。
- ・ これは理想ですか。
- ・ 理想というより考え方である。私は、こうした方が良くないかと思う。土地の私有権を動かすことになる。戦後、農地改革のときに一度あった。

#### <政策13の「手段」の検討>

- ・ コンパクトシティは、松戸市がこうなるとおもしろい。大改革になる。住んでみたい。今、国が変わっていく時代だから、可能は可能。
- ・ コンパクトにするからということで、政治的に、容積率の緩和を認めてもらうという方法もあるだろう。
- ・ 考える人はいるが、いつもこういうものは実現しない。何か、問題があるのだろうか。
- ・ 国からの補助金が出ないとできないのか。
- ・ わからない。
- ・ 松戸市として、すごいことをやっているなというのが、インパクトとしてあった方が良くないか。
- ・ もっと小さいレベルで、モデルを構築してからやった方が、できる可能性があるのではないか。

- ・ 商店街の整備は大切だと思う。近くにショッピングセンターが出来過ぎている。
- ・ 減CO2大作戦は、あれだけのものがあるのだから、もっと知らせる必要がある。成果として「地球温暖化防止のために、市は啓発をして、市民は情報を入手して、家庭で実践できる市民を増やしていく。47万市民一人ひとりが気持ちを持ってもらう。」とすれば大きな成果になる。「市民一人一人が対策を実践する」と手段のところに書きましたが、成果に移してください。
- ・ 小中高校などで、授業で教えるということができれば良いなあと思う。こういう専門家の人たちの話を聞けてない。子どもたちにわかりやすいようにしないと、大人になってもわからない人はわからない。
- ・ 小学校で20項目教えることがある。全小学校で希望校に手を挙げてもらっている。
- ・ 平成14年から子ども環境講座、19年から親子環境講座をやっている。その他に大人向けの講座もやっている。地球にやさしい環境宣言にということで、小学生全2万人のうち、7000名が加盟してくれた。そういう努力はしているが、なかなか浸透しきれていない。さらに、継続努力が必要だと思っている。
- ・ 薬物教育を全校でやることになっている。他人に任せるのではなく、大事なことは自分で教育しないと子どもに伝わらないと思う。環境教育も、親が身を尽くして見せてやらないと、なかなか大変なことではないかと思う。だから家庭が大事だと思う。
- ・ 松戸市では、子どもたちを中心にもったいない運動をやっている。環境学習とくっつけるのはどうか。子どもたちに環境学習として、温暖化防止のためにどうしたら良いか教えてはどうか。三つ子の魂百までではないが、子どもに何回も言えば、ゴミの分別や水の出し方などきちんとやる。
- ・ 学校が授業の一環でやっている。校長先生によって、だいぶ温度差がある。トイレの手洗い場に行ったら、水がちょろちょろしか出ない。子どもに分別を注意されたこともある。子どもたちが身につければ10年後は変わる。高層マンションに住んでいる人間として、コンパクトシティ以外の方法がないかと思う。
- ・ 経済産業省の事業で、1カ月前くらいに、モデルになるまちづくりの申請が募集された。自分の心の中で、理想のまちづくりを形成して、申請できるような形が作られたら良いなと思った。もちろん行政が先行する話ではあるが。国に認められるかわからないが、そういうものが作れたら良いなと思う。
- ・ 自分の家庭では輸入商品をたくさん使っている。アフリカ、東南アジアには我々の何百分の一のエネルギーしか使っていない人がたくさんいる。私たちが

けが良ければ良いのではない。そのためには、新エネルギーや省エネを含めて、私たちの生活を見直していく手段がとれないかと思う。

#### <政策13の「成果」の検討>

- ・ 市民にPRして、みんなでやっていきましょうという話があった。それを成果としてアピールするのは、大変良い発想であると思う。
- ・ 地球にやさしい行動宣言が、松戸市の人口を超えれば良いわけですね。
- ・ 具体的にわかりやすくするのが良い。みなさんに訴えるわけだから。「地球温暖化防止に向けて、新エネルギーの開発や省エネを進めて、市民一人ひとりが低炭素社会を実現する。」というように具体性がないとだめだと思う。もう1点。啓発がみなさん大変だと思う。まつど生涯大学とかに出ているので、減CO2とか聞く。後の感想は、ああ良かった。家庭、地域から理解してもらった方が良い。

#### <政策14の「目的」の検討>

- ・ 今まで10年間、安心、安全のまちづくりが松戸市の提唱であり、それで進んできている。これから先、二番煎じ、三番煎じにならないように、どういう風に進めていくか、政策10、11、12も含めた形で検討しましょう。
- ・ 皆さんの意見をみると、同じことを言っていますね。
- ・ 「犯罪のない生活に向け」という案が出ましたがどうですか。
- ・ とりあえず、この言葉にしましょうか。

#### <政策14の「手段」の検討>

- ・ 自分でできることは、自分でやるのが基本。その後、行政ですね。
- ・ 文句ばかりで、自分の家の鍵をかけずに、泥棒に入られたという人もいる。
- ・ 私が出した「社会的規範」のイメージは、事故の方です。高校生がヘッドフォンを付けて自転車に乗っていると、後ろから車で走るのが危ないと感じる。
- ・ 携帯電話をしながら、下向いて歩いている人が非常に多い。危ないですね。
- ・ この間、横断歩道を歩いていたら、後ろから来た自転車にぶつけられた。携帯電話を操作している若い女性だった。何も言わずにすっ飛んで逃げていった。驚いた。
- ・ 歩道をスピードを出して走る自転車が多い。
- ・ 電動アシスト自転車に乗って、猛スピードで走っている高齢者が多い。今後、問題なると思う。
- ・ ヨーロッパなど、自転車道が整備されている。松戸では、車道を走ると車に轢かれそうになるので、歩道を走っている。

- ・ モラルしかない。道路について、最初から計画して作るのなら良いが、今から広げるのでは大変。
- ・ ハイブリッドカーに乗っている。近所の4mの道路で高齢者が歩いていると、クラクションを鳴らすわけにもいけないので、ゆっくり後をついていく。今から道路を広げるのも無理だろう。
- ・ 言葉は、「自らの責任で」というようにするとうまくつながるのではないか。
- ・ 責任を明確にしないといけない。やってはいけないことは、やってはいけないとはっきりする必要がある。
- ・ お店の前で、歩行者と自転車がもめていた。2人とも知っている人だったので、いい加減にきなさいと言って、解決させたことがある。そのとき、警察官が10人くらいきて、別々に話を聞いていた。警察官に、自転車専用道路になっているか確認するように言ったら、歩行者優先であることがわかったので、話がついたが、2時間ももめていた。
- ・ 仲介してくれる人がいたから良かったが、誰もいなかったら大変だった。
- ・ お巡りさんは、ほとんど困っていた。そういうときは、毅然としてやって欲しいと思う。
- ・ 新松戸には6万人いて、警官は4人しかいない。出動も、命に絡むものが第一で、コソ泥やもめごとくらいだと呼んでもなかなか来てくれない。呼ばれてもすぐ来られる状態ではない。増員するとなると、私たちの税金がまたつぎ込まれることになる。
- ・ できれば、パトカーやミニパトがいなくても安心して暮らせる街にしたい。
- ・ 6号線のところを車で曲がろうとした。横断歩道を渡る一中の生徒が、全員お辞儀して通った。非常に気分が良くて、学校に電話した。朝から本当に気持ち良かった。
- ・ 夜回りをやると、うるさいと苦情が出るらしい。だから、8時前後にやっている。それでは、何にもならない。何とかならないかと思う。
- ・ 「地域力」という言葉を入れたい。個人責任だけでなく、地域で見守ることも必要だ。
- ・ 夜回りで、赤色灯を持っていると、違反している車が逃げていったことが3回ある。昨日、近所でコソ泥が入った。朝、犬の散歩をしているので、事情聴取に来て話していたら、ここは防犯体制、自治会がしっかりしていると言われた。
- ・ こういう会議をやっていると、最終的には市民の力が絶対に必要だと感じる。
- ・ 一番よくわかっているのは、地域の人。

#### <政策14の「成果」の検討>

- ・ 地域がまとまることで、全部でなく、ある程度のことができる。馬橋消防署管内だが、鐘を鳴らしてマイクで放送しながらまわってくれていた。その後、うるさいと苦情があったためなくなった。私たちはまわって欲しいと思った。1人の人のためにやめるのかと思った。1人や2人の意見ではなく、地域がまわってほしいのであれば、まわってくださいということで話がついたことがある。人間のエゴは嫌なものだと思う。
- ・ その最たるものは、新松戸のムクドリだと思う。新松戸まつりの前、食べ物の中に落ちたりすると困るので、花火や爆竹を使って、家移りしてもらっている。それを見ていた若い子から、じいさん、ばあさんが、鳥をいじめているというインターネットでの書き込みがあった。それには参った。中には、3度も背広に糞をかけられたという人もいる。人間のエゴは嫌だなと思う。エゴのない社会にしたい。
- ・ そういうことは、いろんなことに良い結果を生むのではないか。
- ・ さんざん言いたいことを言って、やりたいことをやって、一人になって、災害のとき誰が面倒をみってくれるのかという人がいる。近所と仲良くなるしかないですねと答えている。
- ・ 「お互いに助け合う」ということですね。
- ・ 助け合いは、困らないとわからない。本人もわからない。
- ・ 政策10の成果もみてみましょうか。共通する部分があるかもしれません。
- ・ 自助、共助、公助は、10年前の計画書にも出ていた言葉。
- ・ 10年間やってきて、出来なかったことに対する検証はしたのか。
- ・ 大災害がないのでされていない。
- ・ すぐやる課に連絡すると、蜂の巣捕りはすぐ来てくれる。
- ・ 白浜で蜂の巣捕りを行政に頼んだら、そういうことがたくさんあるので業者を紹介された。
- ・ 犯罪と事故は手段が違うので、一括りにできないと思う。
- ・ 犯罪について、松戸警察と、東警察は取り組みが違うのか。署長さんによって、犯罪に強い署長さん、事故に強い署長さんなど、署長さんによって違う。
- ・ 目的は、犯罪や事故のないまちにして、手段は合わせて直す。

#### <政策15の「目的」の検討>

- ・ 相続で土地を売ったときに、大きな樹木を伐るのを止められないか。
- ・ 緑と自然は括られるのか。動物たちを入れたと思った。
- ・ 生物多様性という言葉がある。
- ・ 平成10年に作った緑の基本計画は、目標年度を32年度とし、中間の20

年度で見直しをした。その中で、漢字の「緑」は樹林地、ひらがなの「みどり」は自然環境、生き物を含むとなっている。ひらがなの「みどりを残す」としたら良いと思う。

- ・ 一般的な言い方は、「自然」または「生き物や植物」である。
- ・ きのう、東口で見た、花のポットを若い人が座ってつぶしていた。マナーがない。

#### <政策15の「手段」の検討>

- ・ 矢切の斜面林があつて、東京から江戸川を渡って、戻ってくるとほっとする、近くにみどりの環境があると癒される。その環境を地域で守っていこうという活動が、地域の担い手ではないか。一言で言うと、「みどりの市民力」だと思う。担い手は地域のボランティア的なもの。
- ・ 今話を聞いていると、成果のところ、潤いのある生活を実現できそう。
- ・ 「癒しの生活環境づくり」というところに結びつくと思う。
- ・ 江戸川を歩いていたら、ボランティアの人が種を蒔いてコスモスの花を咲かせてくれた。もう少し宣伝してもらえませんか。
- ・ コスモスまつりについて、広報に載っていましたよ。
- ・ 「みどりの市民力を推進する。」には解説が必要だ。
- ・ ゴーヤの緑のカーテン、松戸市が提唱してやっている。市長がカンボジアに行つて、カボチャを持ってきたが、来年あたり広がっていくみどりになるだろう。
- ・ 市民参加といった方がわかりやすいのではないか。
- ・ 協働の方が良いのではないか。
- ・ 市民力に重きを置いた表現にする。

#### <政策15の「成果」の検討>

- ・ 「人と生き物にやさしいまち」という言い方を。自然を大切にする心を持っている人は、生き物や他人にもやさしいだろう。
- ・ 「人と自然を大切にする思いやりの心」としたらどうか。

#### ■ 次回の内容の確認

- ・ 本日検討した「目指したい姿の宣言文」を踏まえて、「指標」と「市民と行政のそれぞれの役割」を検討する。

■ 次回分科会の日程の確認

- ・ 日時：平成 21 年 10 月 14 日（水）13 時～16 時
- ・ 場所：新館 7 階会議室

■ 分科会長あいさつ

- ・ これだけの時間でまとめるのは大変。最終的には形ができてくる。一般市民がわかる宣言文ができれば良いと思う。

■ 別紙「宣言文検討用資料」「目指したい姿の宣言文一覧」

以上

# 政策10 災害に対する不安を減らすようにする

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災</li> <li>・命を大切にする社会</li> <li>・災害から人命を守るため</li> <li>・災害に強い街のため</li> <li>・災害時の人的被害(死傷者)ゼロに向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の備えを万全に。備蓄・訓練・PRなど</li> <li>・安全に暮らせる為に災害を通して同じ災害を起こすことなく安全な街づくりをする</li> <li>・災害に対する関心を持つことで…</li> <li>・自治会・町会への働きかけ</li> <li>・地域を通して</li> <li>・自主防災組織率を上げることで</li> <li>・耐震対策を実施することで実現する</li> <li>・自らの防災意識を高めることで</li> <li>・大規模災害に皆で防災意識を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識の高揚</li> <li>・自助・共助・公助を実践する市民が増える</li> <li>・自助・共助の体制を実現する</li> </ul>	

## 政策11 火災等の災害から市民生活を守る

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災による死者を無くすため</li> <li>・火災による被害を無くすために！</li> <li>・自助共助</li> <li>・大規模地震が発生しても、被害の少ない街に</li> <li>・火災による死者を無くすため</li> <li>・安全・安心な街にするため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の大切さを考え、人的被害者をなくすことで、より安全な市民生活が守れるよう努力する</li> <li>・共助グループ組織</li> <li>・行政と市民が努力することで</li> <li>・各分野の縄張りを越えて、協力しあう</li> <li>・地域社会との係わり</li> <li>・イザという際あわてず、行動できるよう訓練することによって</li> <li>・常日頃から近所・又自分でも用意する物など考えておく</li> <li>・火災報知機の設置を推進する</li> <li>・道路の整備を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少単位なので人命救助に貢献</li> <li>・火災の発生を減少させる</li> </ul>	

## 政策12 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命・救急は同一に</li> <li>・病気や怪我をした時</li> <li>・一人でも多くの市民の生活を守るため</li> <li>・救える命を守るために！</li> <li>・安心して活かすため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点病院の物的・人的な充実</li> <li>・救命・救急には拠点病院の充実など受け入れ先の確充も</li> <li>・すべての救命に対してすばやい対応することで助かる命が救われる</li> <li>・拠点病院の充実をはかる</li> <li>・病院が必ず断わらない病院がほしい</li> <li>・救命・救急に関する知識をみんなで学び</li> <li>・医療機関からの更なる情報提供によって</li> <li>・初期における救命処置を行い</li> <li>・救急車の適性利用と</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でのAEDの設置など町ぐるみの取組み</li> <li>・AEDがあったために助かったケースが多い</li> <li>・救命ネットワークを構築する</li> </ul>	

## 政策13 環境にやさしい地域社会をつくる

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境を整備</li> <li>・高齢者</li> <li>・子供・高齢者が安心して住める街づくり</li> <li>・自然エネルギーを理解・導入</li> <li>・CO2を減らす</li> <li>・低炭素の街松戸市づくり</li> <li>・温暖化対応に向けてエコ活動を取り入れて松戸市としての取組みを評価させる</li> <li>・地球温暖化を防止するため</li> <li>・地球温暖化防止</li> <li>・化石燃料の消費を伴うエネルギー激変する</li> <li>・温暖化防止</li> <li>・私も仕事柄、関係がありますが、費用がかかる様です</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能性</li> <li>・商店街の整備</li> <li>・市が一体となって</li> <li>・環境整備計画</li> <li>・東京ガスでは家庭用の燃料電池のセットが売り出されたが</li> <li>・京葉ガスではまだ出来ないのでしょうか</li> <li>・市民の省エネ意識の飛躍的な向上(電気・ガス・ガソリンの激減)</li> <li>・コンパクトシティを目指して</li> <li>・燃料電池が出来ればCO2の排出が少なくなる。LEDの電球が出来れば</li> <li>・各家庭から省エネを考える</li> <li>・省エネ努力 自動車等</li> <li>・若い人の住まい、生活様式を考える時点で</li> <li>・新エネルギーの普及 1. ソーラーパネル(電気) 2. 燃料電池 3. 太陽光の活用 4. 風力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の活性化</li> <li>・市民一人一人が対策を実践する</li> <li>・省エネ社会の実現</li> <li>・CO2の削減に努める対策を作る</li> <li>・活性化(繁盛)</li> <li>・地球温暖化現象を、CO2PPM380→500、温度上昇15℃→17℃の実現に松戸市は貢献する</li> </ul>	

## 政策14 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪による被害を未然にふせぐ  為に</li> <li>・パトカーやミニパトが大分多く  来る様になって来ました</li> <li>・犯罪のない安全な街を作る</li>   <li>・安全・安心の街づくり</li> </ul> <p>※(直接書き込み)犯罪や事故の  ない街</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内やもっと小さく自分の回りが  助け合える(住民の安全)</li> <li>・警察官のパトロールにより地域  安全が確保される</li> <li>・行政ばかり頼らず自分で出来る事  は自分たちで</li> <li>・社会的規範を遵守することで</li> <li>・ミニパトカーならせまい道でも走っ  ていけるので昼間だけでなく夜間  もパトロールしてほしい</li> <li>・子どもの時代が希望あるように</li> </ul> <p>※(直接書き込み)自らの責任で  地域で見守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な社会</li> </ul> <p>※(直接書き込み)お互いに助け合  えるエゴのない社会を実現する</p>	

## 政策15 緑と花に親しむことができるようにする

<b>目的</b> (…に向けて、…のために)	<b>手段</b> (…を通して、…をすることで)	<b>成果</b> (…を実現する、…を生み出す)	<b>その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑と自然を残すため</li> <li>・より良い環境＝緑や花のあるまちにするため</li> <li>・今ある緑を子ども達にひきつぐ為に</li> <li>・緑の多い住環境で暮らすために</li> <li>・松戸の自然保護</li> <li>・市民の意識を高める</li> <li>・人と生き物にやさしいまちをつくる為に</li> <li>・ふるさと松戸の自然を次の世代に贈るために</li> <li>・緑と自然を残す、現在あるものは大切に</li> <li>※(直接書き込み)生態系 みどりを、緑と自然の生きものを残すために(人と生きものと植物)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民力、市民ボランティア仲間づくり</li> <li>・協働で進める(行政、市民)</li> <li>・未来の環境保全</li> <li>・街中</li> <li>・より多くの人に緑に関心をもって頂き</li> <li>・みどりの担い手づくり</li> <li>・休耕地を活用するために役所の緑対策課を通して緑豊かな松戸にするために行動していく</li> <li>※(直接書き込み)みどりの市民力の推進、市民参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いやしの生活環境づくり</li> <li>・緑化清流のまちづくり</li> <li>・自然保護の松戸市づくり</li> <li>・緑に包まれて</li> <li>※(直接書き込み)人と自然を大切にする心(思いやりの心)を養い、うるおいのある生活を実現する</li> </ul>	

目指したい姿の宣言文<一覧>

分科会	政策	目指したい姿の宣言文
安全で快適な生活環境の実現	10 災害に対する不安を減らすようにする	災害に強く、命を大切にする社会に向けて、防災意識を高めることを通して、自助、共助できる体制を実現する。
	11 火災等の災害から市民生活を守る	火災等による被害がなく、安全・安心なまちにするため、行政、市民、近所、様々な分野の人々が協力することで、より安全な市民生活を守る。
	12 救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ	多くの市民の生命を守るために、拠点病院の充実と救命情報・知識を通して、救命ネットワークを構築する。
	13 環境にやさしい地域社会をつくる	地球温暖化防止のため、新エネルギーの活用や家庭からの省エネルギーを図ることで、市民一人ひとりが低炭素社会を実現する。
	14 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる	犯罪や事故のない、安全・安心のまちづくりに向けて自らの責任で地域を見守ることを通して、お互いに助け合える社会を実現する。
	15 緑と花に親しむことができるようにする	生きものと植物を残した環境で人が暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心を養い、潤いのある生活を実現する。